

## 2023 年度第 1 回血液検査機器技術委員会 議事録

1. 日時：2023 年 4 月 15 日（土） 13 時 00 分～14 時 20 分
2. 場所：Zoom による Web 会議  
場所：東北大学医学部 星陵会館 2F 小会議室 1
3. 出席予定者（敬称略）  
新保、稲葉、高橋、常名、内藤、下村、井上、菅原、四ノ宮（現地 Zoom）  
金子、増田、朝比奈、大川、今田、中西、松田、徳永、林、坂井、春日、藤野、長濱、  
齊藤、鈴木、中山、久保、尾藤、大泉、田中、遠見（現地外 Zoom）
4. 欠席者（敬称略）  
なし

### 5. 議題

#### 1) 報告事項

- (1) 2022 年度第 2 回血液検査機器技術委員会議事録確認
- (2) 退任委員

久保田 浩 副委員長兼事務局長→下村 大樹 副委員長兼事務局長

#### (3) 新任委員

井上 まどか 委員→事務局補佐に就任

中西 加代子 委員

松田 将門 委員

徳永 尚樹 委員

近藤 也寸紀 委員→藤野 暢幸 委員（ベックマン・コールター）

生田 勇太郎 委員→中山 洋一 委員（アボットジャパン）

舟久保 博文 委員→尾藤 佳奈 委員（アイ・エル・ジャパン）

四ノ宮 隆師 委員（日本ベクトン・ディッキンソン）

\* 今後の新任予定として、

久保 寛嗣 委員→黒川 千佳子 委員（日本光電工業株式会社）

#### (4) 自己紹介

#### 2) 審議事項

##### (1) 第 13 回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ：「血球計数装置の実運用」
- ② 担当：朝比奈委員、大川委員
- ③ 2023 年 10 月 8 日（日）9：00～11：40（160 分）
- ④ パシフィコ横浜第 5 会場 302（3F 302）
- ⑤ 定員 270 名（事前登録不要）

⑥ 内 容：各メーカーの装置を使用している技師が発表

《演者》

- ・シスメックス社：今田 委員
- ・ベックマン・コールター社：安藤 秀実 氏（日本大学病院病院臨床検査部）
- ・シーメンス社：岡根谷 知美 氏（静岡赤十字病院検査部）
- ・アポット社：市立釧路総合病院の方 演者は確定  
中山 委員から朝比奈 委員、大川 委員に連絡
- ・堀場製作所社：松本 理 氏（柏市立柏病院検体検査科）  
前回の委員会審議された発表者が学会員か否かについて、全員会員であることが確認された。

《進行案》

総時間 120 分と想定し検討していたが、160 分となったので内容または時間を調整する必要がある。

→今回のセミナー担当である朝比奈 委員より進行案の説明があった。

時間を目いっぱい使えるのかどうかも踏まえて検討し、以下の 3 案が提示された。

「案 1」140 分

ユーザー発表 125 分

内訳：25 分（測定原理 10 分＋再検基準 15 分）×5 施設

総合討論 15 分

「案 2」120 分（時間を短くする）

ユーザー発表：100 分

内訳：20 分（測定原理 7 分＋再検基準 13 分）×5 施設

総合討論 20 分

「案 3」120 分（時間を短くする）

ユーザー発表：75 分

内訳：15 分（測定原理 5 分＋再検基準 10 分）×5 施設

総合討論：45 分

→本セミナー後にランチョンセミナーの設定が予想される。時間厳守で撤収（退出）しなければならないことを考慮して下記のように進行することとした。

計 130 分

ユーザー発表：100 分

内訳：20 分（測定原理 7 分＋再検基準 13 分）×5 施設

総合討論：30 分

《発表内容案》

- ・測定原理について、最初に話すのでも、間で話すのでも発表者にお任せ

し、再検基準は、施設の運用による部分、装置の原理による問題だけではないと考えられるので、症例の指定はしないということにより考える。

- ・再検基準の定義は、装置内でのデルタチェックなど精度を高めるための再検や自動血球分析装置の結果を用いて、目視につなげるというところが、知りたいところだと考えているので、今回は含めることを想定している。そのため、CBC だけの再検基準と目視基準も提示した上で、測定原理の説明につなげていくことを想定している。
- ・去年のモーニングセミナーで発表された内容を担当の朝比奈 委員、大川 委員に共有するので、両委員からそれぞれの担当のメーカー委員にも共有していただくこととする。

## (2) シンポジウム 2

- ① テーマ：「(仮題) 凝固検査の課題と今後の展開」
- ② 座長：金子 委員、井上 委員
- ③ 日時：2023 年 10 月 6 日 (金) 13:00~14:30
- ④ 会場：パシフィコ横浜第 1 会場 503 (5F 503)
- ⑤ 定員：426 名
- ⑥ 内容：大会実行委員より、4 演題のうち 1 演題は、

「ラテックス免疫比濁法を原理とする LPIA ジェネシス TAT の基本性能評価に関して」が決定している。

それを踏まえ、座長の金子 委員、井上 委員で検討した案について、井上 委員より説明があった。

### 案 1：全自動分析装置での血小板凝集能検査

血小板機能検査としての凝集能だけでなく、抗血小板薬の治療効果判定での重要性など、全自動分析装置で実施できるようになってきつつありますが、サンプルの調整などハードルが高く感じる部分もある。

### 案 2：凝固波形解析（基礎～病態との関連）

本邦で販売されているどの分析装置でもデータを得ることができるようになってきたので、広く知ってもらおうという意味ではいいのではないかと。

### 案 3：抗リン脂質抗体検査

クロスミキシングテストから LA のスクリーニング検査、APL パネルまでの一連でお話が聴けるといいのではないかと。

### 案 4：AT 検査の標準化

検査血液学会や血栓止血学会ではよく話されていますが、標準化の

ことが広まっていないような気もするので、話題にしていいのではないか。

- ・凝固検査を血栓止血検査としてとらえるなら、血小板凝集能の検査もありかと思う。自施設で実施していないので、演者案となると難しい。抗リン脂質抗体や AT 検査は北海道医療大学、抗リン脂質抗体に関しては、抗体であれば山口大学、dRVVT は聖マリアンナ医科大学病院に依頼してはどうか。
- ・時間的には 90 分・4 講演でそのうち 1 講演が指定されているため、委員会としては、3 講演を決定し、抄録の締め切りが 5 月中旬を予定されている。
- ・凝固波形解析についての発表となると、一次微分、二次微分などに言及すると難しい話になってしまうため、反応曲線を見るだけでも病態がわかることから、反応曲線を中心に話すというのはどうか。徳永委員に引き受けてもらいたい

(3) 第 2 回血液検査機器技術委員会

- ① 日時：2023 年 10 月 7 日（土）9：00～10：20
- ② 会場：パシフィコ横浜打合わせ室 511+512（5F 511+512）  
委員長会議等で変更がなければ、本日程、会場で決定する。時期が近付いたら、委員にはお知らせする。

(4) 第 14 回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ：「凝固測定装置の特徴と実運用」
- ② 担当：金子 委員、井上 委員
- ③ 内容：第 13 回内容を凝固検査に置き換えて行い、第 14 回の終わりで補刷を作  
ることを視野に入れる。進捗については、秋の委員会までに内容をまと  
め、報告する旨、井上 委員より説明があった。

(5) 第 15 回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ：「フローサイトメトリーの実際について」
- ② 担当：稲葉 委員、常名 委員
- ③ 内容：BD、コールター社、SONY 社、シスメックス社等、2021 年のシンポウ  
ムでの内容やガイドラインも基に進める。

(6) 第 16 回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ：「品質保証（精度管理）について」
- ② 担 当：高橋 委員・内藤 委員
- ③ 内 容：ISO 15189 のみでなく実際にどのように行っているのかということや  
是正の方法について内容とする。

(7) 学会雑誌の補冊の発刊について

- ① 2020年、2021年、2023年のセミナーで血球計数は纏まると思われ、2024年には補冊の発刊を予定。
- ② タイトル(仮):「血液検査に役立つ自動血球計数装置の基礎知識と再検方法および症例解析」
- ③ 担当:新保 委員長、井上 委員、常名 委員、メーカー 委員(基本的な原理)、今田 委員をはじめ2023年のセミナーの演者にも依頼する。
- ④ 2022年、2024年のセミナー内容で凝固補冊の発刊を予定(タイトル未定)。
- ⑤ 担当:新保 委員長、下村 委員、菅原 委員はじめ、2022年のセミナー演者、金子 委員、井上 委員をはじめ2023年のセミナー演者にも依頼する。

(5)～(7)に関しては、前回委員会での議事内容と同内容であり、今後改めて審議することとする。

3) その他

(1) 委員の定年について

- ・65歳の年齢を超えて委員会に所属することはできなくなった。当委員会で連絡が来ていたのは前々委員長の渡邊先生のみであり、現在の委員では該当者がなかった。
- ・委員の変更届、交代届に年齢の記載が必要となった旨ご理解いただきたい。  
新保委員長より以上の説明があった。

(2) 委員会のセミナーの参加者名簿について

従来、名前と所属を書いていたが参加証明の配布のみで大丈夫か、学会事務局に確認するようにする。(新保 委員長)

(3) セミナー後のアンケートについて

前回の会議で、セミナー終了後でアンケートをとった方がよいのではないかという意見があり、Google Form等を使用してアンケートをとる方向で検討したい。その結果を今後のセミナーに反映できるようにしたいと考えている。  
新保委員長より以上の報告があった。